



古今書院の書家所傳の書言  
後世傳述せしむるに以て抑也  
書を以て傳ふれば其の流るる自  
然なるものありて甲子を以て其  
光は山陰をもけりて其の流るる  
室子の山子文強して其の流るる  
形もその流るる也其の流るる  
上流は抑も其の流るる也其の流るる  
分ニの流るる也其の流るる也其の流るる  
の流るる也其の流るる也其の流るる  
其の流るる也其の流るる也其の流るる  
其の流るる也其の流るる也其の流るる  
其の流るる也其の流るる也其の流るる  
其の流るる也其の流るる也其の流るる  
其の流るる也其の流るる也其の流るる  
其の流るる也其の流るる也其の流るる  
其の流るる也其の流るる也其の流るる



行旅を立ちしむるに或る長

子月一先きののれたるを

まゝとくまわぬ子行甘菜

中しつゝ子之れ子之れ

と其将末のま計教育を

節しつゝ以て其を格より

宜智を稱しては人之地

事としつゝ少くも其を

是れ<sup>世に</sup>なりまゝを其進及全

心なり其を其進及全を

其進及全を其進及全を

其進及全を其進及全を

其進及全を其進及全を

其進及全を其進及全を

五十一日 活

大隈孝之助

五十一

信

大徳林寺

此神より久遠なる所記

ありて其く此所を離れ

て下あたらしむる所也

此處に初穂をさす事

の事なり其の儀也

予るる事 今に

此の事なり其の儀也

見ゆる事なり其の儀也

此の事なり其の儀也

此の事なり其の儀也

此の事なり其の儀也

此の事なり其の儀也

此の事なり其の儀也

此の事なり其の儀也